

# 令和4年度第1回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会

## (議事録)

◇日 時：令和4年 6月 27日(月) 14時00分～

◇会 場：石狩市学び交流センター(住所：石狩市花川北3-3-1)

◇出席者

<運営委員>

長谷川 理 (副会長) (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)

立木 靖之 (酪農学園大学環境共生学類准教授)

安細 元啓 ((株) 野生生物総合研究所)

赤坂 猛 (一般社団法人エゾシカ協会代表理事)

徳田 龍弘 (北海道爬虫両棲類研究会副会長)

<事務局>

環境市民部 環境課

時崎 宗男 (課長)

中野 康男 (主査)

高橋 恵美 (主任)

<委託者>

工藤 知美 (特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所)

◇欠席者

松島 肇 (会長) (北海道大学大学院農学研究院講師)

◇次 第

1. 開会

2. 議題

(1) 会長、副会長の選任

(2) 令和4年度いしかり生きものかけはしプラン策定について

(3) その他

◇議 事

1. 【開 会】

<事務局>

定刻となりましたので、ただいまから、令和4年度第1回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会を開催します。

本日は、お忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会の事務局の石狩市環境市民部環境課主査の中野と申します。本会の会長が選出されるまでの間、進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。まず、本会の開催にあたりまして、時崎環境課長よりご挨拶を申し上げます。

## 《挨拶》

### <事務局>

石狩市環境市民部環境課長の時崎と申します。

令和4年度第1回いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

本日お集まりいただきました皆様には、日頃より石狩市の生物多様性行政にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

本市では、海から山にかけて多様な自然環境があることから、第3次石狩市環境基本計画で、生物多様性について個別計画を定めることとなりました。「愛知目標」に代わる次の国際的な目標、生物多様性国家戦略の策定を見据えて、石狩市の生物多様性地域戦略「いしかり生きものかけはしプラン」の策定をしていきたいと考えているところです。

生物多様性に関する目標の策定については、本市では初の試みとなります。これから策定までの長期間にわたり、皆様の貴重なお時間をいただき、ご意見を伺うこととなります。石狩市の生物多様性の保全に向けて皆様のお力添えを賜りますよう、改めてお願い申し上げます。簡単ではありますが、私からの挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

### <事務局>

続きまして、委員の皆様の委嘱についてです。委嘱期間は2022年（令和4年）6月1日～2024年（令和6年）3月31日の2年となっております。本来であれば委嘱状をおひとりずつお渡しするべきところですが、お手元に配布させていただいておりますので、ご了承く

ださい。

続きまして、本日は本会の最初の会議となりますので、委員の皆様のご紹介をさせていただきますと思います。

着席されている順に私の方で紹介をさせていただきます。

一般社団法人エゾシカ協会理事 赤坂委員

北海道爬虫両棲類研究会副会長 徳田委員

特定非営利活動法人 EnVision 環境保全事務所 長谷川委員

酪農学園大学環境共生学類准教授 立木委員

野生生物総合研究所 安細委員

また、本日松島委員が所用によりご欠席とご報告いただいております。  
皆様どうぞよろしく願いいたします。

続きまして事務局職員につきまして自己紹介させていただきます。  
環境課課長の時崎です、よろしく願いいたします。  
環境課自然保護担当主査の中野です、よろしく願いいたします。  
環境課自然保護担当主任の高橋です、よろしく願いいたします。  
EnVision 環境保全事務所の工藤です、よろしく願いいたします。

本日は、議事録作成のため本会議は録画させていただきます。

## 2.【議 題】

### (1) 会長、副会長の選任

#### <事務局>

続きまして、本会の会長の選任です。

お配りしている資料で、いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会設置要綱があ

ります。第4条第1項の規定により、意見交換会には委員の互選により会長及び副会長を置くこととしております。会長につきまして、ご推薦のある方がいらっしゃいましたら、挙手の上ご発言をお願いいたします。

**<徳田委員>**

会長を松島委員、副会長を長谷川委員をお願いするのが良いと思います。よろしくをお願いいたします。

**<事務局>**

只今、徳田委員から会長に松島委員、副会長に長谷川委員のご推薦がありましたが、皆様よろしいでしょうか。

ありがとうございます。

それでは松島委員に会長をお引き受けいただきたいと思います。本日、松島会長は所用のためご欠席ですので、代理で長谷川副会長に議事の進行をお願いしたいと思います。

ここからの進行は、長谷川副会長をお願いいたします。

よろしくをお願いいたします。

**<長谷川委員>**

会長に代わりまして、副会長の私が進行を務めさせていただきます。

早速議題の方へ進んでいきたいと思います。

それでは資料の説明をお願い致します。

**<事務局>**

配布資料の確認をお願いいたします。

お手元の上から順に、次第、委員名簿、座席表、意見交換会要綱、【資料1】かけはしプラン概要、【資料2】スケジュール案、石狩市環境白書の抜粋、石狩浜アクションプラン資料、【資料3】の計6部の資料がございます。また、第3次石狩市環境基本計画の冊子をお配りしております。また、お知らせとしてアカモズ見守りのお願いと、オオムラサキの観察会案内を配布しております。過不足等ございませんでしょうか。

## (2) 令和4年度いしかり生きものかけはしプラン策定について

### <事務局>

それでは事務局より説明いたします。

はじめに【資料1】をご覧ください。委員の皆様には委員を引き受けていただく際にご説明させていただきましたが、石狩市では2024年3月末までに生物多様性を保全するための個別計画を定めることとなりました。

お手元にお配りしている冊子の29ページから32ページに生物多様性の現状と課題、目指す姿、施策方針などが大まかに出ています。そちらに記載してありますが、2040年までに石狩市は『豊かな自然と多様な生物、そして人とが共生するまち』を目指します。

その目標に対してどういった施策をしていけば目標を達成するのか、という計画を生きものかけはしプランで定めることとなります。さらに、石狩市は南北に広く、多様な環境が広がっていることから、個別の地域や種に関して具体的な行動計画を表した『アクションプラン』も、かけはしプランの中に位置づける方向で考えております。

現在進んでいるものが、石狩浜の地域の保全を進めるため、石狩浜アクションプランが先行して議論されています。石狩浜のアクションプランは昨年度から有識者の方と意見交換をし、かなり先行して進んでいます。かけはしプランは石狩浜のアクションプランで、ある程度固まっている項目などを吸い上げつつ、全市的な視野で必要な項目について付け足していくようなイメージを持っております。

また石狩浜アクションプランだけではなく、アカモズの生息地が石狩浜で大規模にあることから、環境省の交付金を活用してアカモズの保全対策をメインにした、アカモズアクションプランも同時に進めていきます。

【資料2】スケジュールをご覧ください。本日は第1回目の意見交換会となり、その後委員の皆さん、その他意見を聞いた方が良い方などにヒアリングをし、次回にはたたき台を皆さんにお見せするような進め方をできればと考えております。

今年度には3回程度委員会を開催し、中間報告として石狩市環境審議会に意見を伺い、修正と意見交換を重ねて進めていきたいと思っております。パブコメ等は2023年中を予定しており、最終的には環境審議会にて諮問・答申を経て策定ということになります。委員の任期ですが、2024年3月と考えております。

環境基本計画は2040年までを目標としておりますので、生物多様性地域戦略も合わせて2040年、2030年に一度見直しをするため、2040年としています。そのあとは状況も変わっていると思っておりますので、そこに合わせたものになっていくと思っております。

ここまでで質問ありますでしょうか。

**<長谷川委員>**

施行が2024年の3月ですか。

**<事務局>**

次年度末まで、2024年3月までに諮問・答申・施行となります。

**<長谷川委員>**

前半の2030年度までに6~7年位あって、そこで中間の見直し、それから2040年まで後半の10年という長期スパンですね。

整理すると、まず環境基本計画が上位にあって、次にこのいしかり生きものかけはしプランが生物多様性地域戦略として位置するということですね。さらにその下に、石狩浜のアクションプランがくるのですね。こちらの石狩浜アクションプランの議論がわりと進んでますが、この手元の資料は、今回かけはしプランのたたき台ではなく、先に進行中の石狩浜アクションプランのたたき台ということですね。それから、こちらの環境白書についてはどういった位置づけでしょうか。

**<事務局>**

環境白書の一部ですけど、生物多様性の部分だけ抜き出しています。第3次石狩市環境基本計画、令和3年当初に出来たものに対する、数値目標を仮で設定しています。中間の生物多様性の具体的な戦略が出来ていないので、暫定的な目標を出しています。地域戦略を作っていく中で、この部分も変わってくると思うので、その部分に関しても地域戦略に合わせて、直していけたらという考えがあります。

**<長谷川委員>**

環境白書というのは、環境基本計画の年次報告ですね。石狩市では環境審議会という大元の審議会があって、そこで温暖化対策やゴミ対策といった環境系の対策が、環境基本計画にのっとって広く議論されているという事ですね。

その下にあたる生物多様性の地域戦略の策定を、この場で進めていくという事で、皆さんにお集まり頂いたという事です。石狩浜のアクションプランについても、専門部会が個別にあるという事ですね。審議のスケジュールで資料にあげてもらったとおり、それらが平行して進んでいくと。

**<事務局>**

最終的に審議権をもっているのが、環境審議会というところになりますので、こちらで意見を言っていたら、市の方でまとめて、環境審議会にかけて、また有識者会議に戻してもらうという流れになっております。

**<長谷川委員>**

先ほどアカモズのアクションプランの話が出ておりましたが、審議会などの具体的な策定はまだでしょうか。

**<事務局>**

アカモズの方は、環境省の予算をもらっていて、環境省の予算が今年から3年間が対象です。最後の年にアカモズのアクションプランを作りますというスケジュールにしておりますので、R5年度に完成して生物多様性戦略の下にひとつずつアクションプランも追加されていくという流れになっております。

**<長谷川委員>**

この場でもアカモズの事は取り上げるとは思いますが、アカモズの個別計画は気にしなくてよいという事で、石狩浜アクションプラン、および上位の環境基本計画や環境審議会とすり合わせが必要という事ですね。

**<赤坂委員>**

先行的にいろいろな取り組みをされていますよね。今回は環境基本計画と、すでに動いている石狩浜アクションプランの間に、全市的な生物多様性地域戦略としていしかり生きも

のかけはしプランを作りたいという事ですね。

私は北海道庁にいたときに、こういう作業に携わってきたのですが、地域戦略の概要の作成について、現地点ではどうなのでしょう。全く白紙でしょうか。

**<事務局>**

先行している石狩浜アクションプランの方で出ている意見や課題について、個別の地域だけではなく、全体で考えないといけない部分があります。かけはしプランではまずはその部分をもとに作っていただけると考えております。

**<赤坂委員>**

ある程度事務局側で案を作られて、こういう場で、我々が意見を言うという進め方の理解でよろしいでしょうか。

**<事務局>**

問題ありません。本日は、上位、中間、下位という構造が、複雑なので、まずはこの話をさせて頂き、下の部分のアクションプランというのを吸い出し、全体で見る部分を吸い出す。一方で他の視点から、ここは全体で見たほうがいい、逆にこっちは違うんじゃないか。という話をいただき、まとめ、素案を作成し、次回に皆さんに意見をいろいろ言って頂けたらなという流れで考えてました。

**<立木委員>**

石狩浜アクションプランの内容は決定していますか。

**<事務局>**

まだ決定ではありません

**<立木委員>**

概要はまだ流動的なのですか。

いつ決定されるのですか。

**<事務局>**

令和4年度3月までに今年度中に決めて、環境審議会にかけて、中間との相互もあると思うので、そこを見て細かい修正をして、全ては令和5年3月に全部完成させます。

**<立木委員>**



令和5年3月ということは、今年度いっぱいで大方向確定されるということですね。

**<事務局>**

そうですね。現在はボリュームが大きく、かなり細くて実現できるのか。というレベルまで入っています。誰が見てもわかるもの出来るよう、中身の調整が必要です。あとは、石狩浜に特化した内容、全体の意見も入っています。

**<立木委員>**

いきなり白紙に戻るとか、大筋が変わるという事はないですか。

**<事務局>**

それはないです。

**<長谷川委員>**

石狩浜アクションプランの方がだいぶ先行はしておりますが、出来上がりとの施行のタイミングは、こちらのかげはしプランと同じという事ですね。

**<事務局>**

同じです。

**<長谷川委員>**

石狩浜のアクションプランが先に形になっていくので、こちらの仕上りに合わせていきながら、このかけはしプランも同じ時期に出していく。2023年度中に作り、2024年4月から開始ですね。

**<徳田委員>**

アクションプランはこの2本で行く予定ですか。オオムラサキの資料も入っていますが、さらに増えたりするのですか。

**<事務局>**

いずれはオオムラサキを増やしていきたいのですが、現段階では地元で周知を目指しています。いずれはオオムラサキとか、他の地域へアクションプランを広げていけたら良いのですが、現段階では当初は石狩浜が出来ていて、その次の年にアカモズが追加されていくという流れです。

**<赤坂委員>**

アクションプランがいくつか作られていくというのは、石狩浜海浜植物保護センターでの取組がかなり先行しているので、そういう結果だなと思います。市で設置して、いろいろ活動されているというのはすごいと思うので、そういった意味で石狩浜が中心になってアクションプランを作るといのは行政的には理解できる。

石狩市全体を見ますと、市町村合併によってかなり面積が広がっていますよね。そこに付随した自然環境の情報というのはどうなっていますか。石狩市は海浜保護センターも含めてかなり情報があるでしょうが、厚田や浜益についても、自然環境に関する情報はそちらのほうで収集されているのですか。

#### <事務局>

実は2017年に道の駅が出来まして、道の駅を基軸に自然資源を活用しようという目的のもとに、浜益、厚田で初めて環境調査をしました。4年間かけて浜益と厚田と石狩浜で調査をしてきました。その時に立木委員の学生さんなどにも御協力頂きました。実はオオムラサキは浜益にいると言っていました。地元でも見た人はほとんどいないという状態でしたが、実際に調べて発見されました。ほかにもシロマダラの調査で、継続調査を昨日徳田委員と一緒に調査をして久々に発見出来ました。最近になって市としてやり始めたというのが正直なところです。これまでの調査結果が今回の地域戦略に繋がるのですけども。なかなか広いので網羅的に調査をしたという内容ではないです。

#### <長谷川委員>

3年間大きめの予算がついて、最初の年は浜益を対象とし、安細委員にも協力いただいて、鳥・魚・昆虫・植物などを調査しました。次の年は浜益だけでなく厚田にもシフトしました。3年目は石狩市全域で調査をしていました。それら2018年から2020年、および昨年度をあわせた4年間に、ある程度の情報は入りました。ただしこの先も大きな予算がついているわけではないので、今後の情報をどう増やしていけるか、新しい計画にどう記載していけるかは検討が必要かと考えています。

#### <赤坂委員>

市の単独予算でやったのですか。

#### <事務局>

地方創生交付金という国のお金を使ったのですが、道の駅からどんどん自然資源を発信していこうという目的のもとで、使わせてもらってます。4年間ですね。

**<長谷川委員>**

幸いな事に、オオムラサキの調査でも色々な結果が出ました。ほかにコウモリなども調査をしました。今回のような計画に、生物名をあげていけるような結果も得られましたが、基礎調査は1年だけの単発とか、季節限定の調査になってしまいました。実際は浜益などにはもっと高いポテンシャルがあると思います。

**<赤坂委員>**

私は哺乳類が専門なものですから、やはりエゾシカとかヒグマとか外来種のアライグマなどが気になります。その辺の情報というのは、なかなか難しいんでしょうね。

**<事務局>**

立木委員に浜益でシカの調査してもらうまでは、市の方で北海道から照会のあるライトセンサスくらいでしかなかったです。

**<赤坂委員>**

市がやってるんですか。

**<事務局>**

猟友会と市職員、私も何回か行かせてもらいました。その他はアライグマも農業関係で増えおり、罠をかけているので、

駆除数が上がっているという数値くらいしか見るものはありません。

**<赤坂委員>**

そういう北海道のデータを活用してもらえないですね。浜益、厚田あたりでは立木委員、やられてませんでしたか。

**<立木委員>**

やっていました。2年位前までは定期的にはやってましたけど、集中してやったのは3年位前で、去年、一昨年、2年前もやっていて、今年一年位空きました。

**<赤坂委員>**

そういうデータあればいいですよ。

**<立木委員>**

卒論としてやっていたので、是非使ってください。

**<赤坂委員>**

次はヒグマですね。ヒグマの目撃位置の地図がありましたよね。

**<事務局>**

白書に載っています。

**<赤坂委員>**

ヒグマは全道で問題になっているし、北海道で管理計画を作っているわけですよね。そういった中で、石狩市の地域戦略の中で全道的な問題をどのように位置づけていくのか、気になりますね。

と申しますのも、つい一週間前に、当別の金沢地区でヒグマが住宅街へ出た事例があります。今の時期ですから、おそらく交尾期です。写真を見たのですが単独で出てきており、中型サイズのオスだと思います。去年は札幌の東区に出た。当別を通過して、スウェーデンヒルズ、石狩川を渡って、東区に入っていった。今回はたまたま金沢に出てしまった。毎年そういう出没騒動が起きるのかなと。やはり石狩当別界隈や山塊にはヒグマも相当はりついているんじゃないかなと思うのです。地域戦略にそれなりにしっかり書けたらいいなと思います。

**<事務局>**

実際に石狩川を平成29年5～6月に何回か往復したヒグマが出たときに道総研の間野さんに話を聞きに行きました。当別から来てるんじゃないか、という話をされていて、石狩浜にクマが出るという事は私たちあまり考えてなかったもので、そこは考えていかなければいけない事なんだなど。繋がっているのです。

**<長谷川委員>**

立木委員には以前にもお伺いしたかもしれませんが、当別町などでのシカの調査、あるいはクマの調査は、どんな感じですか。

**<立木委員>**

僕のところには全く情報が入ってきていません。たとえば当別の街中にシカが出て、何ら

かの対策がされたとはあまり聞かない。入ってきてはいると思うんですけど、たぶん市の職員の方々が泣く泣くやっているのではと思います。江別については聞きますけど、当別のことは聞かないです。

**<赤坂委員>**

私のもとに、ライトセンサス調査の資料があるんですけども、当別町はこの10年位は平成11年位からは、ライトセンサス調査のデータはあがってきてるんですよね。

**<長谷川委員>**

実施している主体は町なのですか。

**<赤坂委員>**

ライトセンサス調査というのは全道一斉にやってるんです。北海道庁が、北海道猟友会に委託するんです。北海道猟友会が全道の猟友会支部におろしてます。179市町村全域でやっているんです。毎年10月のたった一日なのですが、同じ手法で同じルートでやります。それが10年20年と続くと、かなり有効なデータとなってきます。当別町ですと2015年は10kmあたり21.6頭というデータです。16年は10kmあたり23.5頭。シカ研究所の梶光一さんは、20頭を超えると中密度という言い方をしております。つまりけっこう高い値が当別に出ている。同様に厚田、浜益でもけっこう高い値が出ていて、2011年に浜益で25.4と出ています。これだけの値が、2011年に出ているということは相当な数のシカがいると考えていいと思います。

ライトセンサス調査の報告書は環境局に依頼すればもらえる事になっております。この会議でも資料は入手できますよね。私の手持ちは2017年までなんですよ。

**<長谷川委員>**

クマやシカもそうですけど、広域を利用するような生きものについては、道が作っていく管理計画だったり、調査だったりというのと、石狩市のような基礎自治体ができるような、もう少し狭い範囲でやる調査などとの役割分担も必要ですね。石狩市ではこういう事をやるから、道の政策にも協力もできるとか、道にはもうちょっと広域な取り組みや調査研究を期待するといった感じの、書きぶりが大事なのかなと。

**<赤坂委員>**

鳥獣被害防止計画を石狩市さんが作ってますよね。

<事務局>

アライグマの環境省の平成23年度の方針に基づいてということで取り組んではおりまして、年間400頭くらい捕れています。

<赤坂委員>

被害防止計画を作った課は農政課ですか。

<事務局>

どこの課までかは、現時点では確認できていません。

<赤坂委員>

おそらく総合計画に基づいて、被害防止計画は作られていると思います。交付金ももらえますからね。有害駆除をしている部局でやっているかと思います。

<事務局>

アライグマを委託して駆除しているのは農政課です。

<長谷川委員>

年間400頭というのはアライグマだけの数ですよ。

<事務局>

農家さんの罾にかかる数です。

シカの有害駆除は把握していません。電気柵で守るといっているかと思っています。

<赤坂委員>

石狩市では猟友会の会員さんいらっしゃるんですよ。

<事務局>

ヒグマに関しましては、当課の環境保全担当でクマが出たときは出動して、場合によっては駆除して頂くという委託をしています。

シカについても実績がないだけで、有害ということになった場合駆除するということも、計画の中身になっているという事は考えられます。計画をもっているかと思っていますので、担当課に確認をしたいと思っています。

<赤坂委員>

北海道が取り組むシカの管理計画を、市町村で落とし込むとどこに行くかという、特措法事業で被害防止計画を立てているところに行くですよ。そこが道の管理計画と連携しながらやるところなんです。そこに反映されれば、生きてくるんです。

**<事務局>**

本市でいうと、農業被害が入り口になっているのではと思われますので、農政担当の方に確認をとればわかると思います。

**<赤坂委員>**

鳥獣被害防止特別法は2007年にできて、所管しているのは農水省です。道庁も農政部なのでおそらくそのままいけば農政部だと思うんです。

**<事務局>**

シカを駆除したと聞かないので、枠組みとしてはありますが、駆除すべき対象としてはまだないという事かもしれません。調べてみます。

**<長谷川委員>**

アライグマの罠を貸し出したりして、農家の方がかけているという事ですか。

**<事務局>**

石狩市の場合、野犬掃討と一緒にやっております、野犬掃討のパトロールしている車が罠の回収と付け替えをするという委託になっております。ほとんど野犬もいなくなったので、アライグマがメインの業務になっております。

**<立木委員>**

浜益や厚田でも、シカの有害駆除はやっていないのですか。

**<事務局>**

聞かないですね。いる事はいるのですが、国道でシカ事故が年に数件ありますし。我々が知らないだけではと思います。

**<長谷川委員>**

電柵の補助金とかは。

**<事務局>**

100%でると聞いた事があります。

<長谷川委員>

どの時期にどのあたりに柵を設置しているかといった情報は、農政の方にあるかもしれませんね。駆除はしてなくても、農業被害に関係するような情報がいくらかあるかも。

<事務局>

もっぱら電柵は普及しているという事は聞いております。駆除しているかどうかは情報がありません。

<長谷川委員>

駆除以外の情報でも参考になりますか。農家はシカの被害が増えるから何とかしなきゃとなると思うんですけど。

<立木委員>

農業被害で見るのが一番良いのですが、冬の被害と夏の被害は分けて考えなくてははいけません。冬の被害は森とか植生の方に入れると思うんですが、その被害を調査したのはうちが初めてで、以降は系統だった調査というのは聞いたことがありません。最新情報はわからないんですけど、この一年間はやっていないので。縦長のこの地図でいうと、上の方は有害駆除をしてもよいレベルになっていると思います。電気柵は張っていますが、全然中に入れるので。

浜益、特に幌はかなりの頭数がいます。厚田は電気柵を張っている農家と張ってない農家がまちまちです。シカの被害が多い所では電柵を張っていることが多いです。浜益はほぼ全員張っています。厚田になるとそこまで張ってなくて、望来あたりでは張ってる所もあるし、アライグマ用を張っている所もあります。北の上の半分は夏にけっこうなシカ密度がある。南の方はまだ目をつぶっておけるくらいの被害なのかなと私たちはみています。浜益辺りでも駆除されていないということを知って意外でした。

<事務局>

我々にその情報がきてないだけかもしれないです。その辺の確認はします。

<長谷川委員>

結構重要かもしれませんね。

<立木委員>



猟友会に駆除隊などの組織はありますか。

**<事務局>**

駆除隊という組織は聞いた事がありません。

**<長谷川委員>**

上位の計画とか下の計画とか聞いた事がありますが、他の計画との関係で教えて頂きましたけど、農政系で予算つけれるのであれば、つけてもらって出して対策したほうが良いですよ。道の方からもそういう法律に伴って、駆除関係とか農業被害対策はそちらからお金をちゃんとつけてもらって、浜益でも駆除してもらおうというのが充てれるのなら、そちらでしてもらおう。むしろ生物多様性系は冬の森林被害を抑えるとか、そっちに回せられれば、お互いに情報共有も出来るでしょうし、その辺りは他分野との情報とかも石狩市内のものをおさえて頂ければと思います。

**<立木委員>**

インデックスとしては有害駆除してるなら、駆除数。あとは、一般狩猟してるなら、狩猟で捕獲された頭数。ほかは農業被害、交通事故件数でしょうか。交通事故とかはたぶん警察の方で押さえている。データとして集められていて、統計等を取れるとすれば、上がってくるようだったらという感じです。

**<長谷川委員>**

交通事故関係で応急処置的なシカ対策など侵入防止とかではなく、シカの個体数管理レベルの予算だったり、取り組みを行える事などはありますか。交通事故とか農業とか全然違う分野でありますか。

**<赤坂委員>**

交通事故関係でしたら道路管理者で統計取ってると思うんですよ。どこどこで事故が起きたら、必ずパトロール車が行って対応しますからね。

要するに、日本海側を通っていると、国道ですか。そしたら国の管理事務所に聞けば、いつこのところで、どういう事故があったか、おそらく聞けると思うんですよ。例えば、全道の北海道全域での国道の事故は道警が管理してますし、市町村道では市町村でとられているところはある。私は北広島ですが、北広島では市道については市役所がやっています。

**<事務局>**

市内の交通事故でしたら、本市でも交通安全の担当の部署がございまして、北署から事故のデータをとっています。その流れで、おそらく市内のシカ事故についてもデータがあるかと思えます。

**<赤坂委員>**

シカに関する生息動向というのが見れると思えます。事故の件数がどうか、場所がどうか、貴重な情報です。

**<事務局>**

わかりました。それもわかる範囲で調べておきます。

**<長谷川委員>**

このあたり、今回の会議にむけて、地域戦略のたたき台を作るときに、それに向けては情報収集とか、盛り込んだ方がとか、個別にお伺いしたりとか、今みたいな感じでご提案頂ければと思うので、今みたいな議論をまさにお願ひしたいところだと思えます。資料3の説明いただけますか。

**<事務局>**

次に、【資料3】及び石狩浜アクションプラン検討に係るまとめというホチキス止めの資料をご覧ください。

先ほどもご説明した通り、先行して下位にあたるアクションプランの話が進んでおります。アクションプランの方で課題から行動計画を示しております。そちらの内容で全市的に取り組む方が良いことについて、A4横の【資料3】で赤く囲っております。少し内容を見ていただき、この点について全市的な観点で考えたときに、必要な視点やご意見について賜りたいと思えます。

例えば、希少種とかシロマダラ、オオムラサキがあげられます。この辺りは全市的に考えていった方がというのもあります。外来種ですが、もともと私が外来種を研究していたというのもありまして、石狩浜の方ではアズマヒキガエルを調査しています。徳田さんに情報を頂いて、札幌市はこうしているよとか、そういう話を聞いたり、厚田でも広がっているとい

うの也有ります。また海浜地でヒキガエルというのも事例があまりない話です。砂地で越冬してるとはという話也有ります。浜を超えて、全市的に考えた方が良いという意見もあると思います。資料をみてもらい、先程のようにご意見をうかがえると、良いかなと。

持続可能な利用という項目になっているところは、まさにこれがアクションプランで、ハマボウフウとかの植物の事を考える内容になっているので、全市的ではなく、個別的な部分だと思っています。

長期的な目標という事で、中身を見てもらってこの視点がかけているなど、お話頂けると助かります。環境白書の中で、実施事業を書かせて頂いているので、こちらを見て頂くと、想像しやすいかと思ひます。

#### <立木委員>

僕はシカの調査を浜益でやりましたが、最近はこちらの石狩浜の方まで着手したいと思ひています。僕が住んでいるのは銭函の海が見える場所なんですけど、森がズーっと繋がっているんですね。札幌のシカの対策をしていた時に解析をした事がありますけども、石狩の防風林からつたって屯田へ入って行く事が出来る。そういうコリドー、緑の回廊的なものは、浜益から小樽山塊まで繋がっているんです。僕はそういう感覚を持っています。計画の軸の一つとして、海岸の森が下の方まで繋がっているんだと。そういうところに石狩市はあるんだというようなデザインを、大元に説明すればいいんじゃないかなと思ひます。石狩市の計画だから石狩市の事を書くのだけど、この会議の場ではその辺が網羅されている大きな地図を作っておいて、石狩市がどこにつながっているのか、当別はどうか、札幌はどうかということを経験収集しながら進めないと、全体の計画がうまくいかないのではという感じがします。

石狩の北の方はシカの密度は高いけど、南側の石狩川の方では密度が薄くなってくる。一方で小樽からのカシワ林が繋がって、コストコの向こうの辺り、石狩湾新港辺りではけっこう増えてシカの痕跡がある。それが今後どうなっていくか、モニタリングしてからということになりますが、どこからどういうふうに来ているのかと、そういう視点があればいいなと。

#### <長谷川委員>

僕も以前、石狩市の自然環境調査の計画を立てた時にそういう考え方が大事だと思ひた

覚えがあります。石狩市は細長いというのが特徴的です。たとえば石狩湾も、西側は小樽市をはじめ複数の市町村が連なってますけど、石狩湾の東側は全部石狩市です。つまり石狩湾の半分は石狩市に面しています。海岸の連続性も同様です。渡り鳥のルートとして、広い空間で見た時に、稚内側から道南側にかけての位置づけとして、細長い石狩市はかなり重要な位置づけです。そうした視点を盛り込んで、石狩市の自然環境の位置づけを考えるのは必要ですね。もう少し大きめの地図をイメージしながら考えますかね。

#### <徳田委員>

アズマヒキガエルも河川伝いに分布を広げていくことがあるので、札幌との情報共有などが必要です。北の方へも遡上していく可能性があるので、繋がりがあった方が良さそうですね。

#### <長谷川委員>

石狩川の河口ですからね。石狩川全体としては、大半が石狩市以外を通っているのかもしれないですけど、最後に流れ出る所にあるという位置づけですね。

#### <事務局>

すべてが流れ着いてくるので。

#### <立木委員>

グローバルな視点でも、渡り鳥の話もありましたけど、やはり完全なる通り道です。それから自然エネルギーのこともいろいろ書かれてますけど、開発の手が伸びるという話がありますよね。

#### <赤坂委員>

森林に依存する野生生物の多様性といった事を考えた時に、石狩市というのは、天塩増毛山塊の一番南に位置するんですよ。そういうゾーンのイメージ。天塩増毛山塊に強く依存してますから。代表的なものがヒグマです。ヒグマは、道内で五つの個体群に分かれていて、その一つが天塩増毛個体群なんですよ。そこは国のレッドデータブックで絶滅の恐れがある地域個体群として位置づけられている。30 数年たって、全道五つの個体群が膨らんで数が増えている。多くのヒグマが増えてきていると認識されています。その一番南の方に石狩市が位置している。先ほど立木委員が言ったように緑のコリドー、海岸線が他地域へ繋がっ

ている可能性がありますから。森林以外の湿地帯だとか、そういう見方で生物多様性がある。そういった意味では、石狩浜ではかなり先行されてやられてるのではと思っています。

**<立木委員>**

今回は、衛星画像を用意されたほうが良いかもしれません。これ（紹介資料）はまさに石狩低地帯の地図です。俯瞰するには非常に役立っています。是非、最新の衛星画像を用意して頂ければ、議論がふくらむ。

**<赤坂委員>**

参考までに回しましょうか。

**<事務局>**

その手の写真で解像度が高いものは石狩市だけしかない。

**<立木委員>**

それは金子先生に作ってもらいました。

EnVision さんも十分データをお持ちだと思います。地図を大きめに印刷して、真ん中にとんとあると、ここはどうなのだ。という話が出来ると思うので、もう少し意見も膨らむと思います。

**<長谷川委員>**

次までに準備しましょう。

**<赤坂委員>**

夢が膨らみますね。

**<長谷川委員>**

地図を見ていると楽しいですね。他にもいろいろな地図情報もありますし。

**<事務局>**

道央圏の中の石狩市という視点は、自治体職員では持ち得ない視野の広さで、大変貴重な視点だと思います。

**<立木委員>**

その軸が決まればそれをもとにしてどのデータを収集するとか、どの辺のデータが抜けてるのかなとか決まると思いますし、森があって、水があって、湿原があって、それぞれセクシ

ョンになって、ポジションが決まる。森も上の方から下の方まで繋がっている。

#### <事務局>

緑が繋がっているという考え方も我々は思いつかなかった視点でして、言われてみれば、防風林という形で、麻生の方まで繋がっている。海岸線もそうですね。

#### <赤坂委員>

石狩市は留萌振興局と地続きですよ。隣接しているのは増毛町ですよ。増毛町のライトセンサスは2015年65頭ですよ。これはかなりの危険水域です。どんどん北から南の石狩の方へ流れて込んできて、連携しないとシカ対策はしっかり管理できない。

もうひとつクマですが、北大の演習林が天塩にあるんですよ。天塩でクマ研の皆さんが40年近くモニタリング調査をやってるんです。演習林内の調査ルート上で発見される足跡とかフンとかもろもろ延々と集めてきている。そのデータをみると春グマ駆除をやってる時にはどんどん落ちてきています。春グマ駆除を止めてから徐々に回復してるんです。それはおそらく天塩演習林だけではなくて、おそらく天塩増毛山塊全体で起きていると思った方がいいんです。繋がってますから。

#### <長谷川委員>

石狩市だけをイメージしていると、札幌市や小樽市との連携が大事だという点はともかく、増毛町とかはあまり思い浮かばないですね。立木さんは振興局の調査もやられていますよね。いかがですか。

#### <立木委員>

留萌はあまりやっていませんが、情報が入らなくはないです。シカは大動物なので、大きく動いてくるとい印象はあって、浜益にいるシカは内陸の方から来てるんじゃないかという話が出たりするので、そういう観点をもつのは自然の事なんです。一方で両生爬虫類とか虫とかはどんな感じですか。

#### <徳田委員>

森林繋がりで動くというのもあるんですけど、やはりヒキガエルが河川で動いてるといものがあります。旭川から石狩まで来ているのは有名です。望来とか厚別の辺りのヒキガエルはもしかしたら、石狩の方の川から上がって来てるのではなくて、山を超えて滝川・砂川

の方から来てるかもしれない風にも見えます。

#### <長谷川委員>

石狩川はかなり北の方からずっと流れて来ているけど、それよりも北側の、例えば厚田とか浜益の川は、割と東西に走っていて、南北には繋がっていないので、カエルの分布が北上していくイメージはないと思っていたのですが、ヒキガエルは厚田の方へ北上して行っていますね。

#### <立木委員>

石狩川は渡れるのですか。

#### <徳田委員>

渡れますね。上流で繁殖していると、卵が流れてきてオタマジャクシがその周りにいる。そこで定着してしまったとか、いろんなケースが考えられますね。

#### <長谷川委員>

安細委員、他の地域などをみていて、石狩市の昆虫の特徴というかありますか。

#### <安細委員>

まず海岸の石狩浜と、そこからの増毛山塊、増毛山地にはちょっと独特の昆虫がいる。あの辺りはわりと固有の名前がついています。浜益の調査の際にはとれてないんですけども。海浜の砂浜というのは石狩浜では調査ができますが、北の方は崖になっているので、調査のために近づけない所がたくさんある。

先ほどの写真を見ても陸側の沿線で一番長いのが当別・野幌道ですね。当別町の情報としては当別ダムの情報位で、調査活動されているのかもしれませんが。生き物の情報はあまりない気がします。当別町の生きもの情報というのは少ないんじゃないかな。

札幌市側と小樽側とは隣接する市町村を含めてデータベース化をしたことがありますけれども、当別町はほんとなかったのでは。増毛町は当別よりはあるかもしれない。

#### <赤坂委員>

当別には道民の森がありますよね。道民の森は石狩市のエリアには入ってるのですか。

#### <事務局>

厚田区が入っていたような気がしますね。

**<赤坂委員>**

道民の森でデータありませんかね。生きもの調査などして、パンフレットなど作って発信してるんですよね。何かないですかね。

**<事務局>**

植樹だけですかね。クマゲラという活動をしている団体。木を切って育ててやっている方とかは道民の森で環境学習とかやっているとか聞いた事はあるので。

**<赤坂委員>**

石狩市の中では、国有林とか道有林とかはなかったですか。

**<事務局>**

あります。厚田とか。

**<赤坂委員>**

それは道有林ですか。国有林ですか。

**<事務局>**

だいたい国有地ですね。財務省。

**<赤坂委員>**

そういう管理しているところは、石狩市内にはないんですかね。石狩森林管理署みたいな。いずれにしても、国有林があれば森林のデータというのがありますから。それは石狩森林管理局でしょうか。

**<立木委員>**

僕らが入林申請する時は石狩管理局。許可はとってるんですけど、防風林の管理も国有林です。

**<赤坂委員>**

国有林と連携して出来るのかな。かなり協力的にやってくれると思います。使える所はどんどん使って下さい。

**<長谷川委員>**

地方自治体の政策としては大事ですよ。どこか別の組織が取り組んでくれるのであれば、それに越した事はないです。



<事務局>

そもそも国でやっているのであれば、こちらに頂ければ…。

<長谷川委員>

情報もそうですが、うまく連携して予算をつけてくれるのであれば、一緒にやるのが一番ですね。

<立木委員>

まずはどこで、何をやっているかというのを図面に落とし込む。アナログでも全然OKです。僕がいつもやるのはA0くらいの地図を、もうちょっと集中してもいいかもしれませんが、そこに知ってる情報を貼る。そういった作業はあってもいいかもしれないです。ワークショップ的に。

<長谷川委員>

そうですね。こういう地域戦略を作る際にも、土地の所有情報などを整理した地図を作っていく。それはまさにOECMなんかにもつながる。民有地があるのかとか、OECMに指定出来そうな場所を探るという意味でも、計画作る段階で載せていくと良いかもしれません。

<事務局>

結構市とかはここにこういう、種がいるというピンポイント情報が落ちていたりするんですよ。この沼にエゾサンショウウオがいるけど他はいない、結構特異的な場所の情報は持っていたりするんですが、全域的な話って実はあまり考えた事がない。

<長谷川委員>

自然環境調査を始めた時は、他の方々にもそれぞれの情報を探してもらいました。特に浜益の情報がないので、その周囲も含めて、どこか調査地として使えるのかとか、公開されているような情報がないか、調べて頂きましたけど、なかなかなかった。現地情報を拾い上げました。地元で詳しい人がいたら、教えてもらおうといったことが大事で、そういうデータを拾い上げられるのは貴重ですね。

埋もれていきそうな民間データを拾うという事は、価値のあることだと思います。

安細さんにお伺いしたいのですが、例えば昆虫について今回の地域計画に何をどう書い

ていくかなど、難しそうだなと感じます。石狩市の場合は、札幌市などと違ってレッドリストを作っているわけではないので、種ごとにカテゴライズされていない。その中でオオムラサキのような種は保護していこうと書くことになるのですが、それ以外はいかがですか。たとえばほかの自治体や地域では、どうしているのですか。

#### <安細委員>

北海道ではレッドリストがあるのは札幌市だけです。札幌市と隣接しているので参考にできるとは思います。しかし、石狩市には海があって、石狩市のアクションプランによく出てくるイソコモリグモなどがいます。虫じゃないけれども。また、スナヨコバイみたいな海浜にしかいないもののように、非常に限定された環境にだけで生息している種に注目してトピックスにするとかでしょうか。保全の考え方としてはやりやすい。オオムラサキというのは特別です。オオムラサキは札幌周辺にもいますが、栗山町が有名で保全している。栗山町は西北端とっていますが、実際に北限というのは浜益のオオムラサキです。そこから近いのは札幌です。石狩市内では他に見つかってないだけという可能性もありますけども、浜益にしかいない可能性は高い。蝶屋さんもそれなりに入ってますよね。ここ何年間か調査をやってきて、少しずつ見つかりつつあります。もしかしたら、増毛にいる可能性もゼロではないと思います。

オオムラサキのようにあんなに大きくて飛翔力の高いチョウがずっと昔からいる。エサのエゾエノキが少なくいため、途中にいても見つかっていないということも、あるかもしれません。

#### <赤坂委員>

オオムラサキの食草は何でしたか。

#### <安細委員>

エゾエノキです。

#### <赤坂委員>

エゾエノキの分布というのは、どの程度。

#### <安細委員>

今わかっているのは、北側は浜益あたりです。道南にはエゾエノキはありますが、オオム

ラサキは道南にはいません。実際にいるのは、夕張、栗山、長沼あたり。小樽、余市にも記録はあります。最近発見されました。

<赤坂委員>

エゾエノキの人為的な分布の影響というのは。

<安細委員>

あまりないかと思います。浜益もそうですけど、崖の下とか、だいたい斜面の際。札幌だと藻岩山、円山とか、あの辺りにたくさんありますけども。豊平川中流域から円山方面にかけて。

あとは、道南だと日本海側の崖下にポツポツあるみたいですが。奥尻にもあるんですけども。北は浜益より上にはちゃんとした記録はありません。もともと北海道でとても少ない植物です。浜益でも探していますが、実田というオオムラサキがいる所にはたくさんあります。そこ以外で自生しているのを見つけたことはないですね。もう少し存在するとは思いますが、まとまって生えていないと、なかなか見つけれません。

あと、石狩にはまとまった湿原がないような気がします。湿原性の昆虫というのは意外に少なく、見つかってない。海岸の名無沼とかにゲンゴロウはいますけれども、低湿地のオサムシなどの大型の地表性昆虫というのは分かっていない、あまり調査を行っていないということもありますけれども。

<赤坂委員>

石狩の湿原は少ないという事ですが、歴史的にはどうなのでしょうね。

<安細委員>

もちろん石狩川の下流域は昔はほぼ湿原のはずです。生振はほとんど畑や水田になってしまっていて、まとまった湿原的な環境というのは、ないですよ。

<事務局>

湿原とよんでいるところとしては、マクンベツ湿原でしょうか。

<安細委員>

マクンベツは水位が高すぎますよね。低湿地という感じではない。

<長谷川委員>

ミズバショウがあって、オオジシギなんかがありますね。対象範囲を広く考えた場合には、他地域との位置づけの中で石狩市の重要性を考えるという視点ですけど、逆に石狩市の中に絞ってみた場合には、わずかにしかない残っていない湿地のような環境こそが大事かもしれないですね。

#### <安細委員>

海浜地をほっといていいわけじゃないと思いますけど、比較的面積が残っていますが、湿地とかの場合は非常に少ない。アカモズもそうですが。

#### <長谷川委員>

石狩市の中で乏しくなっている環境と言えるかもしれません。

#### <安細委員>

海岸線の横の名無沼は人工的なものだと言われているけど、小規模な湿地はポツポツありますよね。ああいうところの方が本当は小さな昆虫とか小さな生きものとかがいます。ただ、アズマヒキガエルの生息地ともかぶっている。

#### <赤坂委員>

生物多様性地域戦略については今の見方でいいんだろうか、今だけを見て 2040 年を考えていいんだろうかと感じます。昔はどうだったかなといった観点から今の状況を守るといいう事があったとしてもよいと思うのです。当別町という地名はアイヌ語なんですよ。トウは沼の意味で、ベツは川の意味。当別のあの地域はまさに開拓した当時に沼とか川のあった地域の中に当別があることを表している。そういった意味で当別は沼や川があちこち見れるんですよ。今だけを見て、将来どうなって、これまでの環境はどうみれるという情報量というのは限られてくると思うんですよ。そういった視点も入れるとおもしろい。

#### <立木委員>

ゴールをどこにするかという概念かもしれませんが、釧路湿原の湿原再生事業なんか、1980 年代位の湿地を目指すということにしています。ですので 1977 年の空中写真などからよみとって、その時の湿原の面積がこの位でといった、そういう基礎的な情報を集めています。どの時代までさかのぼるか、どの辺りまでの時期の自然を 2040 年までに目指すとか、あるいはゆくゆくはどのくらいまでの自然に戻すのかという概念的なものも決めて

よいのかもしれませんが。その根拠となるものがあればよいですね。探してみるのもよいかもしれませんが。

**<安細委員>**

きわめて少ないでしょうね。この地図をみても、おそらく生振の川の周辺はもともと湿地で、今は畑。畑はまだ使っているところが大半でしょう。水田はどうとうなくなってきていて、放棄されている所もあるのではないのでしょうか。活用案としては、生振の方では、アカモズの事も含め、どこか放棄されている場所があるのなら活かしてはと。

**<長谷川委員>**

その通りですね。石狩以外の他の地域で、例えば自然再生事業のような、代表的には川が対象でしょうが、蛇行河川に戻すといった。最近では耕作放棄地を湿地に戻していくとか、森林に戻していくとかといった再生もやられています。石狩市ではまだそういった話は出てきていないと思うのですが。

**<事務局>**

石狩川流域でいうと、とにかく治水が優先されています。ぐにゃぐにゃの川をまっすぐにする。

**<長谷川委員>**

石狩市では、新港あたりでは土地改変の度合いが強い。過去に遡って石狩浜がどんな感じだったか、昔アカモズがもっといた時とはどのくらい土地利用が違っていったかといった、情報を収集したいなどは思っているのですが、さすがにその時期の環境に戻すとか、1980年頃に戻すとかは、到底思い浮かべれないほど変わってしまっているんで、あまりそういう発想はありませんでした。でも安細さんがおっしゃる通り、たしかに生振辺りとかは、もとは湿地だったから湿地に戻していこうといったような措置はありうるかもしれませんね。

**<事務局>**

あそこはたしか客土しているような気がします。

**<安細>**

そうですね。もともとそこも水田。

**<事務局>**

そうです。北生振は上から見ると、砂丘列などが残ってますよね。明治時期、高岡から客土して畑を作っていたのですが、昔湿地だったことは間違いない。ほとんど田んぼや畑になっています。生振にはシマアオジが数多くいたという話を聞いています。

#### <長谷川委員>

シマアオジのような草原性の鳥は、札幌近辺にも普通にいたという話です。札幌の東側の湿地も、さすがにもとに戻すというのは困難でしょうが、ちょっと遡って考えることも必要ですね。

#### <立木委員>

自然再生事業の話を出してしまったのでややこしくなっていました。せっかくの機会だから過去を調べるのもいいんじゃないかと。そういう意味合いでした。

#### <長谷川委員>

アピールするためのアクションとしては、「小さな自然再生」のような活動はいいなと思っています。ありきたりだけど、子どもたちと一緒に植林するとか、ゴミ拾いするとかというシーンは、アピールとしてわかりやすい。そういう意味では、生振辺りで、湿地の再生に取り組むといった行動計画を盛り込むと、アクションとしてとれますよね。生物多様性の保全というと、どうしても個体数の減少率をこれくらいでおさえようとか、なんとか生息地を守ろうとか、絶滅を防ごうという感じになりがちだと思いますが、ポジティブな取り組みも出来るといいですね。

#### <事務局>

市民の方の具体的な行動となってくると、わかりやすいもの学びに繋がるものが良いですね。そんなにレポートリーがないかもしれないですけども、やはり市民の方に分かってもらえるというのが、打ち出せる要素があれば出していきたい。直面している危機とかがあれば、それを守ろうという危機感からの取り組みがあると思います。もっと石狩の自然のためというポジティブな方向性の取り組みというのもあっていいのかなと。

#### <徳田委員>

自然再生というと、元の自然に戻していくという感じなんですけど、シロマダラのいるところは、人工的に手入れがある場所です。シロマダラとか、エサのトカゲとかが生き残るた

めには、ある程度草刈りをしなくてははいけなかつたりします。アクションプランが成り立つのかなと考えると、どの方向を向くか、自然再生の方をむくのか、それともシロマダラが住める環境を残していくという方向を見るのかというので、視点が変わってくると思います。

#### <立木委員>

目標設定だと思うんですね。僕が自然再生事業と言ってしまったからなのかもしれませんが、自然再生事業に関していうと、阿蘇の火入れとかは人が介入して関与して維持されている生物多様性です。現存するものを目標にするという意味では、それも再生事業の一つになっていく。いろんなタイプがあってしかるべきだし、無理やり昔の状況を維持するということではない。

#### <徳田委員>

湿地とか里山、田んぼの保全というイメージですね。

#### <立木委員>

そういうのもありだと思います。荒廃していくのはどうか、という事もあるので。

#### <事務局>

それこそ道総研さんと一緒に海浜植物等保護地区というのが、北石狩衛生センターの横に聚富地区という一部保護地区があります。人の立ち入りを禁じていて、原生花園という名前なので、昔は放牧をして、その場所に食圧をかけることで、海浜生態系成り立っていたんじゃないかという場所です。その奥に植林をしてしまったので、砂の移動が全くなくなってしまいました。海浜植生が少なくなっているところを道総研さんが何か所かはぎとって、自然再生を目指しています。実験する場所があってもいいけど、ただ全域ははさすがに無理だし、そこは今後きっとアカモズが生息するんじゃないかという話あります。

#### <長谷川委員>

たとえばニセアカシアがいっぱい海岸に生えています。そこはアカモズにとっては重要な場所なので、ニセアカシアが外来種だからといって、全て切っちゃえばよいという話にもならない。うまくアカモズの生息を維持しながら、もしそこがカシワ林に置き変わっていくのであればそれに越した事はないと思いますけど。そういう課題もありますね。

#### <事務局>

一部は再生しつつ、一部は現存する今後の植物の遷移を見ていくような場所です。ただそこにシカがすごく入っていて、ススキがシカを食べいる。密度が高くなったら、もっとひどくなるのでしょーけど。

**<立木委員>**

どこですか。場所は。

**<事務局>**

聚富です。北石狩衛星センターで川の向こうに白い建物があって、その隣に保護地区があります。結構今年頻繁に行ってるんですけど、若芽のうちのススキをスパンと切って、たぶんシカだと思える食痕がありました。あとはヒロハクサフジにもスパンと食痕があって、他の海浜植生は見つけられなかったです。その植生と左岸が微妙に違って、あそはすごく面白いと思うんですけど。このままいくとただのススキ野原になってしまうので植物だけの観点でいくと、掘り起こして、海浜植生の根っこを残してあげた方がいいんです。しかし、昆虫とかになると、たぶんその場所を削っちゃうと良くはないので、考えつつというところですよ。

**<徳田委員>**

石狩海岸はヒガシニホントカゲが生息していて、砂浜で貴重だと思います。ススキを掘りどころにしています。海浜植物としてはススキはいらないけど、トカゲには必要。なかなか複雑ですよ。

**<事務局>**

スナヨコバイという昆虫もススキが好きらしくて、それも絶滅危惧種のレベルらしいんですけど、石狩浜にはたくさんいる。そういうの考えると、全てが悪という事もなくて。

**<長谷川委員>**

ヒガシニホントカゲは見つけにくいんですか。

**<徳田委員>**

石狩市では見つけづらいんですけど。日本海側の砂浜地帯に何故かヒガシニホントカゲが結構いる。その辺りが珍しいんですよ。小樽の銭箱海岸辺りから、初山別位までいるにはいるんですけど、少ない。石狩では特にあそび一ちの辺りが、濃いですね。



<長谷川委員>

そのうちもっと詳しい事を具体的にお伺いすることになりますが、シロマダラはどう保全していくのがよいのでしょうかね。

<徳田委員>

シロマダラの今の生息場所の環境が森に戻ると散っていくと思うんですよね。生息に支障はないと思うんですけど、どうとらえるかなんです。日光浴がしやすいとか、エサが集まっているということで、見つけやすい状況になっていると思うのです。それを保全する必要があるか。定期的に観測出来る場所は貴重なので、残せれば残したいと思うのですが、それが生物多様性保全の目的に沿っているかどうかというと、根本的にどうかと思いますね。

<長谷川委員>

今出てきたシロマダラのように人工的な環境の保全をどうするか。

<安細委員>

ヒメギフチョウが生息している千本ナラの周りも草刈りしてる。

<長谷川委員>

アカモズもそうですし、シンボリックな種をとりあげて保全を進めるのは必要ですね。一方で、割と特定の環境に特徴的な昆虫なんかもあります。例えば海浜。そういう環境を保全しないといけないようなものもありますね。

<徳田委員>

現時点では、石狩市のシロマダラの生息地は、日本最北の生息地なので大事は大事です。

<長谷川委員>

切り口ですよ。希少種や外来種のように種レベルで考えていくものと、環境としてくくるもの。人間の生活とともに維持されてきたみたいな環境も。たとえば浜益の果樹園などは本当にそういう環境です。

<立木委員>

プランを立てるのであれば、目標をどこにするのかという事だけは、考えなくちゃだめですね。生産性的な側面であれば80年代頃にはいなかった動物はいなくてもよいという事になる。そうではなくて、今現存している環境を保全していくのであれば、今保全している環

境を保存対象としていくプランになるし、そこはある程度初期の段階で目標を定めておいた方が良くないかなと。改変された環境に入ってきた、それがたまたまキャッチーな動物を守るのか、それとも元々いなかったから放っておくのか。目標がないと迷走していく気がしています。

#### <長谷川委員>

道の方でも生物多様性計画を改訂していて、それに合わせて、EPO 北海道の主催でフォーラムをやっています。その中で北大の宮内さんが、生物多様性地域戦略として重要なのはあくまで戦略だと。道が策定しているのは地域計画。戦略と計画は違う。戦略はプランではない。戦略というのは、こうなった場合はこうするか、状況を踏まえて考えていくもので、プランというのは、何年迄に何をすればよいかみたいなものだから、本来は戦略であるべきだということをおっしゃられていました。僕もその通りだなとは思ったんですけど、ただ難しいなど。それなりにわかりやすい計画の方が評価もしやすいし、個別の目標も立てやすいので、その辺の兼ね合いが必要です。極端に言うと全部箇条書きにして、それぞれの取組を書いている方が、個々の評価とかがしやすい。ただ、おっしゃるように、ビジョンは必要ですね。具体的に今から考えていかないといけないという指摘ですが、どうでしょう。

#### <事務局>

こちらの方で、むしろ浜益とか厚田の調査結果とか皆さんにここで公表しておけば、もう少し違う目線であったかなと思ったところです。どんなことを石狩でやっているとか、先ほどのゾーニングではないですが。保護センターは、いろんな事を浜の方ではやっているの、それが一枚の図面で見られると、より具体的な話とほかの市町村とのやりとり、重要になってくるのかなと。生物多様性の保全とは、何なんだろうというところがたぶん根幹になると思うので。

#### <赤坂委員>

生物多様性のあり様というのは、石狩市は一様ではないですよ。石狩の中部から上の方の森林地域、それから南の方の地域と、かなり違いますよね。一緒に考えるのは難しいですね。ゾーニングがあってもいいのかなと思います。

#### <立木委員>

海の事とか魚の事とかはどうですか。

**<事務局>**

そこを入れたいところなんですけど、全然情報を持っていないというのが正直なところで。

**<立木委員>**

専門家はご存じかもしれません。魚の人とか、海の人とかね。

**<長谷川委員>**

そうですね。海の管轄というのはどうでしょうか。例えば、洋上風力の計画があって、その辺りの権限とか、管理者は誰か、許可を出すのは誰か、保全するなら誰がするのか。

**<事務局>**

情報がない。そもそも砂丘とかもそうですが、土地の管理者は国なんです。海岸とか。海も、漁業権を持つ、漁師さんとか、漁業権があっても、道の方で持っているものとか、いろいろ入り組んでいる。石狩浜の保護地区は、国に借りて保護地区を作っているの、石狩市の管理ではないというところを、管理をさせて下さいという借りてる土地。浜関係は特に多い。

**<長谷川委員>**

海自体は誰の管轄ですか。陸地だと国有林とか、道有林や民有林みたいな感じで、所有者がわかるじゃないですか。海は。

**<事務局>**

海の管理者は国です。港があったら、港の管理者になります。港湾区域という一部の地域を港湾法に基づいて切り取るんですよね。それは管理者を立てる。本州であれば、知事。北海道であれば、市町村長が基本的に港湾管理者になります。石狩湾新港は道庁と小樽市と石狩市で構成する一部事務組合が管理しています。

**<長谷川委員>**

港湾区域に風発を建設するとなった時と、最近の計画のように港湾区域の外側に建てる場合で違ってきていると。

**<事務局>**

そうですね。港の中に風車を立てますと言ったら、最終的には港の管理者が、港湾計画の

変更手続きを経て区域を決めます。一般洋上風力につきましては再エネ海域利用法に基づいて、国が洋上風力発電の促進区域を決めて、入札によって事業者を決めます。決まった業者は30年間促進区域を占有する事ができる、という内容になっております。

<立木委員>

区域を決めるときに石狩市はやめてくれという事は出来ないのですか。

<事務局>

やめてくれという事は出来ますが、石狩市は道庁に促進区域として、有望な区域の情報提供をしています。

<立木委員>

どちらにしても意見をいう事は出来る。

<事務局>

はい。本市は、一般洋上風力発電に関しては、推進のスタンスです。

<長谷川委員>

窓口は道という事ですか。

<事務局>

国が促進区域ですと決める条件として、道庁が、利害関係者らによる法定協議会というのを立ち上げて、そこで協議が整うという事が必要です。そういった意味では窓口は道です。

<赤坂委員>

環境省や北海道庁の生物多様性戦略（計画）の中で、海の取り扱いをどうやっていくか参考にした方が良いでしょう。

<長谷川委員>

その通りですよ。実は道の生物多様性計画にも海が入ってないんですよ。「浅海域」という言い方をしている対象はあるんですけども、多分今みたいな話は想定していない。景観的に森林や湿地の生物多様性は対象にしていますけど、海の話は基本的に扱っていない。印象としては誰も北海道の海を守ってくれていないという感じがしますね。海鳥を研究していた観点からすると、海域の生物の保全についてはほぼどこも触れていない。環境省がもっとやるべきなのかなと。

**<赤坂委員>**

例えば環境省の法律の中で、鳥獣とは何かというと、海の生きものはいないですよ。トドは水産庁がらみで漁業被害を先行的に管理しちゃってるので、環境省は手を付けません。ゼニガタアザラシ、ゴマフアザラシとか、北海道海域で5種が繁殖していますが、これらは鳥獣保護管理法の対象動物ですね。その中のアザラシ類は石狩海域でも悪さしていますか。

**<事務局>**

しています。トドですね。

**<赤坂委員>**

トドは水産庁マターですから。

**<事務局>**

アザラシは情報がないです。

**<赤坂委員>**

そういった点から考えてみてもいいのかなと。トドは水産庁ですね

**<立木委員>**

後志ではゴマフアザラシの話を書いたことがあります。

**<赤坂委員>**

石狩市には80キロ位の海岸線があるので、何も見ないというのはなかなか言えないのではと思います。

**<長谷川委員>**

そうですね。環境アセスの議論をしていた際にも、石狩湾という名前には「石狩」とつく位だし、隣接している石狩市で、もう少し石狩湾の保全を考えればいいのにと感じました。特に海洋の部分、石狩湾の内側の海域についても、市町村も誰も責任もって、保全の声をあげないという感じだなと。天売島や利尻島で繁殖している海鳥なども、最近いろいろとわかってきていて、採食のための行動圏として、石狩湾の中にまで入ってきています。繁殖地は利尻島や天売島といった他地域ですけど、行動圏として石狩湾も重要な場所だと分かってきているので、保全の取組が必要なんだと思います。と言いつつも、どこまで今回の計画に、

石狩湾の話を取り入れるのか、計画に記したところで、石狩市がどう関わっていけるのか。

#### <赤坂委員>

どこまで関与できるかというのはありますけれども、やはり海の生物の情報を、欠落させるのはどうかと思います。北海道には水産試験場というのがありまして、各地域、たとえば道東では釧路とかにあるんですけれども、近いところでは、余市の試験場辺り行けば、豊富な情報があります。そのあたりは周知しておいた方がいいのかな。

#### <立木委員>

今までの野鳥の観察情報をリストアップするとか、調査状況を調べるのもありですね。あと、気になっているのは、以前のウェブ会議でも言った陸域の話ですけど、濃屋山道の（エゾシカによる）植生の被害がひどい。自然調査をされている方から教えもらった事があって、濃屋山道から手前の方までの道を、春先の残雪の時期にボランティアで歩いているらしいんですけど、かなりの被害が出ているそうです。こういう場所も、保全しなければならない公園みたいな場所として扱うべきですね。つまりゾーニングです。将来的にここら辺の植生はモニタリングするべきだとか、必要な対策を検討すべきだとか。シカが海沿いで越冬する事がわかっているので。そういうのをピックアップしていくということも大切かなと。

#### <長谷川委員>

「ゾーニング」というと、一つにはたとえばゾーニングマップのように、広い範囲の全域を何かしらのカテゴリーにカテゴライズするというやり方があると思うんですけど、それはなかなか大変だし、かえってわかりにくくなる事もあります。一方で、重要なエリアや特定のエリアを抽出する。たとえば濃屋山道とか、黄金山エリア、石狩浜、マクンベツ湿原など。そういうピックアップする形で、その区に域対して面的な取り組みが必要という指定の仕方のゾーニングもあると思います。そういう意味でのゾーニングとして、必要な場所を考えていくのが必要かなと。そういう場所の候補を上げておいた方が考えやすいのではないのでしょうか。

#### <事務局>

浜益とか厚田の環境調査をしましたが、けっこうピンポイントに調査しています。濃屋とかポイントを絞っていました。今回の情報は実は地域戦略に繋がっていくんじゃないかと

思います。そういったところでシロマダラもいるし、そちら側にいない種もいろいろいます。そういった全体的にみた部分と小分けにみた部分というのを両方合わせて、考えていくというのも一つの視野、一つの種というのが大事ななと思いました。特に山も川も海も全部あるこの石狩だと、広い目で見えていくという。

今日はいろいろな意見を頂いて、こちらとしては、参考になります。

#### <長谷川委員>

ゾーニングには、メリットもデメリットもあると思います。自然環境調査の際も、全域をくまなく検討して重要な場所を選んだわけではなく、いろんな人の意見を聞いて、重要だと思える場所で調査してきた。その場所を今回の計画でも対象にしていく、というのは視点としてはわかりやすいんですけど、漏れている場所はまた拾い上げができなくなってしまう。僕らが気づいてない、拾い上げていないような場所もできるだけ考慮したい。かといって網羅的な調査は出来ないの、他にも重要な場所があるかもしれないという前提で考えておかないといけないなと思います。

#### <事務局>

おそらく、我々が持っている既存の情報をもとに、見立てていくしかないのかなと。その上で、立木委員がおっしゃっていたように、うちの街が何を指すのかという事をはっきりさせた上で、皆様に議論頂くというようなのがいいのかなと。加えて基礎データですね。環境調査をやっていた蓄積を共有させて頂いて、その上でいろいろなご意見を頂けたらと思いました。

さらに申せば、今、長谷川委員からゾーニングの話も頂きましたが、あの時も確か2年やりましたけど、海の情報に極めて乏しいので、海のご意見もありましたけど、今回も海の情報を集められないという可能性もあるかと思います。

#### <長谷川委員>

せめて既存情報だけでも集めていくというのは。

#### <事務局>

そうですね。アウトプットはさておき、かけはしプランの中では、必要性についてはあるというご意見は。

**<長谷川委員>**

情報収集からでもよいので、何かに取り組むとか、少しずつでも着目していくといったことが必要なところは、かりにそれしか書けないとしても、欠落するよりはよいというご意見かなと。

**<事務局>**

ここから集めたらという風には。この人にこういうの聞いたらわかるかもという方についても教えてもらえれば、この委員会を通して、ヒアリングとか情報を集める事も出来るので、気づいた点とか先程の具体的なこの人に聞いた方がという話もあると思うので。そういった人に関しても教えて頂いたり出来ればなと思います。

**<長谷川委員>**

ではそろそろ事務局にお返しします。

**<事務局>**

地政学的なマクロの視点から、全市的に幅広くご意見を頂けたと思います。また、今回頂いたご意見を踏まえ、次回、事務局として用意すべきものがいくつかあると考えております。

今後も皆さんに、ご議論頂くためにも、土台の骨子計画など、ご指摘頂いたいくつかのデータを見つけまして、全てが揃うかどうか分かりませんが。皆様にお示しした上でまたご意見頂ければと思います。引き続きお力添え宜しくお願い致します。

## 閉 会

**<事務局>**

長時間に渡りご審議賜りましてありがとうございました。

本日の議事録につきましては、会長に確認後、各委員にお配りしたいと存じます。

次回については、本日いただいた意見をもとに素案になるようなたたき台を作成し、委員の皆さんにご意見伺うようなところまで進めたいと思います。個別にヒアリングなどもお願いするかもしれませんが、その際は事務局よりご連絡させていただきます。

これで第1回意見交換会を終了いたします。



本日はどうもありがとうございました。

議事録確認いたしました。

令和4年7月27日

いしかり生きものかけはしプラン有識者意見交換会

副会長 長谷川 理

---